

## 教育課題検討委員会 第4回 議事概要（公開）

平成 29 年 2 月 20 日(月)19:00～21:00

総合福祉センター 3 階集会室

（課長補佐）

ただいまより、第4回多度津町教育課題検討委員会を開会します。  
はじめに、多度津町教育委員会 教育長 よりご挨拶を申し上げます。

（教育長）

第1回の検討委員会から、第3回までの討議内容をまとめました。

第1回の検討委員会では、諮問文の内容、文科省作成の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き」の内容、町内幼稚園・小学校の園児数と児童数の推移、幼稚園・小学校の園舎とか校舎の状況などについて共通理解しました。

第2回の検討委員会では、本町の子どもたちの動向ということで、転出入の状況、学級編成の状況について、どんな状況にあるかということについて共通理解しました。

第3回の検討委員会では、小規模と一定規模を確保した場合のメリットとデメリットについて話し合い、県下の再編状況を報告し、類似傾向にある市町と比較しながら検討をしました。一定規模を確保するための方向性・期限設定をどうするかが課題となりました。

（会長）

最初に町PTA連絡協議会が実施したアンケートの報告についてです。

（事務局）

今回の教育課題の検討について、現在の園児・児童の保護者に対するアンケートです。PTAを代表する2名の委員から報告します。

（委員）

小学校と幼稚園にアンケートを配布し、実施しました。合計で723枚（世帯）集まりました。

全体的に見て、小学校は4校そのままの希望が多いです。

小学校の希望の全体では、4校案が74%、3校が18%、2校が4%、1校が2%、不明・わからないという回答が3%ありました。

4校希望の理由は「歩いて行ける距離に学校があるべきだ」「統合すると、学校がなくなっていく地域が衰えていく」などです。

3校希望は、「1学年1クラスでは少ないので、解消できればよい」「保護者は役員負担などの軽減で、2クラスもあれば子どもが増え、友達が増えるので、行事も活気

づき、適切な集団生活を経験できる」などです。

2校希望は、「白方小学校と多度津小学校の生徒数が減るようで、それぞれ豊原小学校と四箇小学校に分かれたらどうか」「校舎が古いため、新しく大きな学校に建て替えを希望する」などでした。

1校希望は、「どこかが残るより、1校新たに大きくきれいな学校を建てる」、「小中一貫校を希望」などでした。

小学校のほうでとった幼稚園の希望では、4園希望は、59%に、3園希望が26%、2園希望が9%、1園希望が6%になっていました。

(委員)

幼稚園に通われている保護者の方へのアンケート結果です。

多度津幼稚園、豊原幼稚園、四箇幼稚園、白方幼稚園で、4園希望が一番多かったのですが、3園希望の方の数も多くて、全体で7割から8割の方が3園または4園を希望されています。その中で、3園と書かれた方は、白方幼稚園が少ないので白方幼稚園がなくなることを前提に、3園にしたらいいいという意見でした。

小学校の方なのですが、全体的に4校を希望されている方が、8割くらいの人数で、4校のままであって欲しいということ希望されています。一番多かったのは「徒歩で通えなくなるから」、「地域でのコミュニティを大事にしたい」という意見です。

小学校に関して言えば、数を減らすことに対する緊急性を感じていないようです。

(会長)

これらが保護者の意識の現状であるということ踏まえて、私どもは検討していきたいと思います。

議題の2であります「骨子案の確認」です。骨子案とは、諮問に答える答申案の骨子と捉えてよいと考えますが、主張の中心となる部分は、まだ描かれていませんが、こうした形にまとめていきたいという骨子の案をこの時点で提案することで、これから更に、議論する部分が明確になっていくと思われま。

#### 【事務局より説明】

(会長)

今、あるべき姿、幼稚園・小学校の人及び環境それぞれ説明いただきましたが、皆さんのお考えがあればどうぞ、ご発言をお願いします。

#### 【事務局より説明】

(会長)

具体的な例も出していただけたら。

(委員)

小学校では、子育ての支援というのは、地域との関係という意味は入ってないのですか。

(委員)

放課後児童クラブとか、それに絡んだ預かり時間の延長とか、そういう部分です。

(教育長)

委員、今の幼稚園には入ってなくて、これからの幼稚園には、ぜったい必要だなあと思うものに何かがあるか。

(教育長)

やっぱり、幼稚園というのは遊びが中心だから遊べる環境というのは作らなくてはいけないと思う。

(委員)

子どもの保育に関することと言えば、環境がいかに豊かになるかということで、自然とかも、入ってくる。教室の広さであるとかの園舎の問題、あと、災害への対応も挙がってくる。安全というのも重要。

(委員)

多度津小学校にも言えるのですが、立派な校舎だけど、コンクリートの劣化が進んでいて、非常に水漏れとか、そういうのがある。このまま直しながら使っていくことは、とてもお金がかかりそうで大変だなと感じている。エレベーターが要るかな、とか、バリアフリー化がこれからの校舎だと進んでいく必要がある。これも将来的な課題ですけどね。教育面で言えば、ネット環境、IT化ですね。結局のところ、校舎の安全性、校舎の劣化については、建て直しをする時期じゃないかと、極端に言えばそうなる。そうなってくると、やはり学校規模の適正化という話になる。

(会長)

“安全性”についてですが、建物としての。また、外部の侵入者などからの安全を守るという、“安全性”もあります。

(委員)

今回、怪我をしてきた子を見て感じたのですが、足を怪我した状態では、上の階に上がれないのでね。どうにかしないとイケないかな、と。中学生であれば、友達に荷

物を持ってもらって、松葉杖一本であがったりするのですが、小学生だと、なかなかね。それから、今後、統合教育も進んでくると思うので、さまざまな児童が普通校で学ぶようになると考えると、先々はバリアフリーが大事になってくる。

(会長)

そうですね、保護者目線では、どうでしょうか。

(委員)

狭いとか、そういう意見は、アンケートにも多かった。

(会長)

幼稚園とか小学校の建物ですか。

(委員)

駐車場のことをおっしゃっていました。

(会長)

小学校のほうも、今後大きくなってくれば、必要になりますね。保護者の送迎とかの対応に。

(教育長)

幼稚園は、親が送り迎えをするということで、車で来る方は多い。小学校は、基本的に歩いて登校ということになっている。現状で駐車場は、学校行事の度に、駐車場はいつもいっぱいになっている。

(委員)

ほぼ全校児童の親御さんが来る、それだけの駐車スペースを新たに作るとなると、実際には難しいとは思う。

(会長)

当初、建物ができた時よりは、車社会になっている。必要性が増してくることは事実です。

(委員)

確認ですが、“災害に強い”というのがあるのですが、各幼稚園・小学校というのは、住民の避難場所になっているのですか。

(委員)

通常ですと、体育館とか、ある程度の人数が集まるところが前提ですので、幼稚園は避難場所になっていないのでは。

(委員)

白方小学校は丘の上です。それで、状況によるとは思うのだが、もし地震が来たときに、住民はあそこまで行けないのではないか、という話も聞く。

(委員)

土地の形状ということですか。

(委員)

いえ、“災害に強い”というのは、建物自体が強いのか、経路が安全なのかということもある。

(会長)

両者必要ということですよ。

(事務局)

耐震診断上では、町立幼稚園はすべて100%耐震化できているという結果は出ています。確かに、委員さんがおっしゃるとおり、老朽化が否めないで、大丈夫なのだろうかと思われる方もいると思う。

(委員)

本当に、先ほど言われたみたいに、津波が来たりとか、地震が来たりとかした時に、そういう面での安全かというのが必要だと思う。

(会長)

まずは、子どもたちにとって安全であるかということですね。住民の避難場所になり得るかということもありますけど、それが本当に確立されているか。

(委員)

多度津地区だと、防災マップでは、どこも浸かるような予測になっているので、そこへ避難することも現実、難しい。そうだとしたら、子どもは一体どこへ行ったら命を守れるのかなと思う。

(委員)

私は、多度津高校の2階が避難場所で、多度津小学校は避難場所ではない、という説明を受けたのです。

(委員)

児童には、津波が来たら屋上へ行くように、と指導している。

(会長)

この“確立された避難経路”というのは、住民の方が幼稚園や小学校に逃げる避難経路というより、むしろ、ここで挙げられているのは、どちらかというところ、児童や園児が災害にあったときに、どう避難させるかという事、そういうことかなと私は理解している。

(委員)

高さ的には、屋上でいけると思っているのですが。多小の場合は、津波が来た時は、桃陵公園と言われていたときもあったのですが、指導があつて、たぶん上まで上がれないだろう。白髭神社のほうから上がる経路になっていたのですが、崩壊している可能性もあります。

(委員)

ハザードマップの区域で言うと、多度津駅は、もうハザード外なのです。今、緊急避難通路を作っていますから、そういう場合、あちらへ逃げてもらえれば大丈夫、ただ、それは津波の場合ですので、桜川の氾濫とか、そういうことになると心配。

(委員)

土器川水系のエリアが、今度、変わったでしょう。2市3町から3市4町へ。

(委員)

土器川の場合、100年に一回の確率なのです。土器川が氾濫するような状態になれば、それ以前に、桜川とか、金倉川は、大変なことになっていると思うので。あの土器川の想定っていうのは、桜川とか金倉川に加えて、土器川が追加になるととってもらったほうがいいと思うので、はるかに桜川の影響の方が大きいと思う。

(委員)

目視ですけど、高さで言えば、多度津小学校の屋上も低くはないと思う。

(委員)

港の辺りで、最大で2.6メートルとか。多度津小学校は、桜川を逆流してくるこ

とによる津波のハザードなので、水深自体は、多度津駅でハザードが外れるくらいですから、そこまでは心配ないと思う。

(委員)

一応、想定としては、建物が崩壊した時は、多度津高校へ行こうとか、言っている。

(委員)

崩壊するようなときは、建物の中はいかんでしょう。

(会長)

そうしたところを加えていただいて、と思います。では、資料が皆さまのお手元に参りましたので、議題の2に戻して、「骨子案の確認」に参りたいと思います。

#### 【事務局より説明】

(会長)

それでは、議題の4「目標年次の設定と幼稚園小学校の適正時期の考察」ということで続けてお願いします。

#### 【事務局より説明】

(会長)

幼稚園、小学校の今後の園児・児童数の予測と、施設面での維持費について報告がありました。それに基づいて、目標年次を幼稚園、小学校それぞれいつにしたら良いかということで、提示をしていただきましたが、説明がありましたら発言を。

(教育長)

目標年次とは、1校にするか2校、3校または4校にするかということが実施される時期か。

(事務局)

はい。開校年次、開園年次という捉え方で。

(会長)

そういうことですね。検討材料はいただきましたけど、ここから、どう読み取って、目標年次を定めるかということ、難しいところかと思うが。

(委員)

白方の場合、幼稚園は、複式で何人以上やったら維持ができるのか。

(事務局)

そうですね。一応、1学年6名という基準がありまして、現状で年少・年中が、この人数を切っています。

(会長)

4幼稚園の中で、白方は、すでに目標年次に達しているじゃないかという、そういう風に読めるのではないか、ということですね。

(会長)

何名以上になると、複数クラスになるというのもおおよそ決められているのでしょうか。多度津町としては決められている。

(委員)

2クラスになる基準ですか。今年、2クラスにさせていただいている基準は、3歳児が25名、4歳児が30名、5歳児が35名です。

(教育長)

小学校が35名学級だから、幼稚園が、それ以上に多いのはいうことで、ギリギリの線で35名としているけれども、県下全体を見たときは、30名くらいというのが多いようです。

(委員)

小学校の場合ですが、白方は新築にしました。新しいから、いつまで使うのだという方針というものはあるのでしょうか。新しく建てたから、人間が減ったからすぐに止めるとはならないと思うのですが。

(委員)

それは、今いる子どもたちの安全を確保するためには、耐震改修ではできないから、将来、廃校というか再編があり得るからと言って、現在の子どもたちの安全性を確保せずにはいられないということで、今、改築をしているので、そこは行政として、まず安全性を最優先に改築にした、と。将来、適正配置によって使わなくなったとしても、今の子どもたちの安全を確保すべきという観点から着手しているので、改築したからいつまで使わないといけないとか、という問題ではない。



(委員)

新しい学校でも、止める場合がある？

(委員)

あり得る、と。私は思っているのですが、教育長さん、どうでしょう。

(教育長)

今のところ、委員のおっしゃるとおりです。まずは命を守るということで、あそこは耐震で補強ができない状態で非常に厳しい状態だったのですが、統合の問題などで結論が出たらという考えもあったと思う。ただ、命に関わる問題だから、早く対応しないといかんということで、対応したということです。

(委員)

もったいないけども、お金の問題じゃないよ、と。

(教育長)

そうですね。

(委員)

この会を、もう少し早くしておれば、ということですね。

(教育長)

ただね、こういうところは、結構、四国の中でもいっぱいあって、文科省とも話をしたことがあるのですが、統合をして、それから改築をしたらいいのではないかという案も、コストの面等から言えばあり得ますかね、と聞いたら、それはいけない、と。先にとにかく耐震化をしてくれ、ということが、文科省の強い意見でしたね。

(委員)

たぶん、地元の人からしたら、せっかく新しいのができたのに、なんでやめるのや、という意見が強く出ると思う。

(会長)

それは別問題ということになります。町としては、もし廃校になったとしても有効活用していただけたらと思います。

(委員)

学校再編の検討が、まだだからと先延ばしをしているうちに、30年以内に70パ

一セントの確率で、南海トラフの大地震が起きるといわれている。その検討期間に、もし、起こった場合に、改築が進んでいるところと、耐震性がまだのところとバラバラにあって、そこが被災して子どもの命が奪われるということになると、そこは行政の責任になる。

幼稚園にしても、昭和48年に建てられているので、いくら直しながら使うとなっても、一定の年限で限界が来ると思うのです。その時点で、4つ建てるべきなのか、それまでに検討するという、施設面から言えば、その点は経費的にも非常に大きいですし、安全の面でも、耐震できて倒壊は防いでも、物が落下して危険だとか、今、耐震性はあってもコンクリートがかけて落ちたりだとかしている箇所もあるので、いつまで持たせられるかということも、難しい問題でもあります。

(会長)

施設、建物の面あり、これも検討材料の大きな部分ではありますが、やはり園児数ですよね。あの目標年次を決めていくには。どうなのでしょう、白方幼稚園の場合は、むしろ達しているのではないかという意見がありましたが、そうなると、どう考えればいいのでしょうかね、幼稚園は。早急に、ということなのでしょう。

(委員)

保護者のアンケートの中で、核家族がすごく増えていて、幼稚園に行かせたいのだけど、預かり保育時間とか園行事の問題で、1人目2人目はどうにかなっても、3人目は幼稚園を選択できるかな、どうしようかなという方もいるので、ここに出ている予測の人数が、これからの日本の経済とかも関係してくるかもわかりませんが、思っている以上に幼稚園に通う子どもの数は減るという結果もあるのかもしれない。

(会長)

はい。幼稚園に関しては、どのように取ったらいいものか。

(委員)

もちろん、豊原も四箇も人数は十分いると思うのですが、おじいちゃんおばあちゃんがいなくて、やっぱり共働きで出て行っちゃうと、保育所に、という家庭が増えると、豊原も四箇も人数的に減ることもあるのではないかな、と。早ければ早いほうが良いけど、それに伴うサポートもしていけないと、それがなくて保育所とか、他のところ、例えばよその町の方がいいとか、そういう選択もとれるのでサポートの面も合わせて検討していけないと。

(会長)

さきほどの“あるべき姿の中”にもリンクしている。

(委員)

厳しい言い方をしますと、幼稚園と保育所がありますよね。町の子どもの人数が全体で少なくなったら幼稚園は要りますか、ということ。

(会長)

幼稚園だけでは検討ができないというところもあります。現状としては。保育所と合わせていかないと。

(委員)

親が選択して子どもを入れるので。幼稚園で育てたいという親もいるし、「どうにかして入れたい」という声も聞く。

(会長)

むしろ幼稚園が緊急性としては、切迫しているということで、目標年次についてはどうでしょう。

(委員)

早ければ早いほうが。もちろん、建物の古さと園児の数から言うと、早いほうがいいけど、それといっしょにサポートの面も考えられたほうが。

(会長)

緊急性を要するという事は、先ほどのアンケートからしても見てとれますよね。親御さんと地域の方々の認識や感情というのは、ちょっとずれがあります。そこを、どう補うかということ、緊急性も含めて、検討していかなければなりませんね。

そうすると、どうでしょうか。目標年次としては、できる限り早い時期ということになりましょうか。

(会長)

さて、どうでしょう。「目標年次は何年」と今日定めるわけですか。

(教育長)

白方は、さっきもあったけど、急いでしないといけないとは思いますが、全体として考えるのは、もう1園、多度津幼稚園がそれに近い形になったら、それこそ全部、それまでには一気にせんといかんという考え方もあるという気がする。

(会長)

白方は達しているけど、多度津幼稚園の現状から考えて、ということですかね。

(会長)

多度津幼稚園の現状からすると、どのあたりと読まれているかについては。

(会長)

白方の場合は、他の幼稚園と比べて比率は高いのでしょうか、低いのでしょうか。保育所に行く割合としては。

(委員)

ほとんど保育所だと思います。

(会長)

高いということですよ、他と比べて。ということは、今の幼稚園の原状からして、もうすでに保育所へという選択肢が多いということですよ。

(教育長)

付け加えると、白方校区でいながら、少ないからと言うて、もうすでに他の幼稚園に行っている子どもの保護者の方もいる。

(委員)

現実の問題として、入る子どもさんが何人やったら受け入れるのですか。

(教育長)

今年は、2名かね。

(課長)

転入を含めて、年少さんが3名おって、年中さんと年長さんに1名ずつよそから転入してくる、そういったのを含めて5名になるので。合計で言うと、10名くらいになるのですかね。

(委員)

だから、今年は、そういう受け入れをして例えば来年、1人やったら、「だめです」と言ってお断りをするわけですか。

(教育長)

確定はできないけども、本当は難しいということをおっしゃるを得ない。だから、今までは、そういうこともあったら募集停止という話をしている。

(委員)

一昨年、受け入れ停止という話が出て、地元の抵抗もあって、その年、それはなくなっただと。来年は、また分かりませんが、と。そういう状態で来ており、方針というか方向性というか、ある程度、明確にしておかないと、かなり文句が出ます。

(委員)

入りたいのに、入らせてくれなかったら困るとか、1人やったら受け入れませんよ、ということであれば、そここのところははっきりさせてくれないと。だから、今の人数やったら、たちまち「止めます」と言わないといけないのだろうか。

(会長)

目標年次を定めても、その前にもう自然になくなっていくのでは、ということですか。

(委員)

今は、原則としては募集停止をするけども、この委員会等で適正配置について、検討されている中で、まだ結論が出ていない段階では、各年度の状況に応じて、募集停止するかしないかを判断していくということなので、本来なら在り方を早く決めて、自方幼稚園としては募集の在り方をもっと明確にするっていうのは。ただ、在り方の検討と平行してということになる。

(会長)

適切ではないが、致し方なくということですね。募集停止をしたときには、どういう措置をしていくことになるのでしょうか、他の幼稚園に行ってくれということになるのか。

(教育長)

そうなります。どこの幼稚園にするかを選択できるという。

(会長)

今はもう、そういう現状に来ているということは、やはり早急に、ですか。

(教育長)

それで、今は幼稚園自体が、4つの幼稚園どこに行っても、保護者が選んでもらって構いませんよという形になっています

(委員)

これは、今日で、目標のいつまでっていうのは決めるのですか。

(教育長)

決めていきたいとは思っているのだけど、十分、議論をして決めていかないかんと思います。

(会長)

難しいですね。「何年」というのは、なかなかここでは。

(委員)

アンケートをとったら、幼稚園のお母さんも4園を希望する声が多くて、これから子どもが減るとか、そういうのはわかっているけども、各地域に残しておいてもらいたいという、地域とともに子育てしたいという保護者が多いので。老朽化とか、子どものことを考えたら、早急に検討はしないといけないと思うのだけども、一回、検討しているこの内容を保護者に発信してもらいたいですね。じゃないと、この会で「5年後に1園の方向で」となると、やっぱり反発ってすごく大きくて、それを説得して回るのってすごく大変だと思うので、まず一旦お知らせを。ホームページに載せるっていうのは聞いているのですが、一体どれくらいの保護者がそこにアクセスして議事録を読んでいるのですか。アクセス数は解析しているのですか。

(委員)

受ける側にしてみたら、「発信している」って言われても、それを見ていない以上は、発信を受け取ったことにはならない。

(教育長)

だから、その発信のためには、ある程度、ここできちんと審議して、ある程度決めておくということが。決めておかないと、勝手なことは発信できないわけで。「こういう方向で進んでいきたい」ということが、ある程度決まっておかないといけないのじゃないかと。そこで言ったことがその後が変わって行って、全然ちがう案になっているという話ではいけないと思う。

(委員)

なかなか難しいのはね、委員が言われた部分でね、各地域の感情がある。

(委員)

例えば四箇、豊原はなんにも動かされる心配がないですから。そういう人たちは、白方が合併したらいい、吸収されたらいいという気持ちで言うとするわけですよ、このアンケートでは。だから、地元感情というのは、一筋縄ではいかんのです。

(委員)

決まったことを発信するのも大事なのですが、どういう風に、今話が動いているってのを発信しておかないと、知らない保護者は急にその話が沸いて出たみたいになって、「何その話？」と言われかねないかなあ、と。今回、アンケートをとったので「そういう動きがあるのかなあ。どうなるの？」っていう話は、保護者同士ではあるのですが。

(教育長)

そういうことのために議事録を公開している。あるいは、今回のアンケートも効いたのではないかなと思っている。議会等でも報告をすとか、色んな方法で、審議の進捗状況については、できるだけ知らせると言うかたちにはしている。

(委員)

まだ、よくわかっていないのではないかと。

(委員)

このアンケート結果のフィードバックもどうしたら良いものか、と。

(教育長)

それ自体は、僕は良いと思っているのだけど。

(委員)

通常、やっぱり、パブリックコメントなど実施したら、住民の方から意見をお聞ききするのですが、行政としたら「現状はこうで、こういう風に考えて、こうしたいので、パブリックコメントをします」という、一定の方向性が出ないとなかなかこう、教育長が申すとおりにかなと思います。それまでに、検討の過程ごとにある程度、情報発信はしていくのですが、一定の方向性が出ないと「こういふうにしたいと思うのですが、どうでしょうか。意見はありませんか」という聞き方を

しないといけない。

(委員)

保護者の代表と言ったらなんですが、そのかたちで参加させていただいて、今まで会に参加して、子どもが減るとか、町のお金のこととか、これは致し方ないのだなということ、私たちは会議に出て「なるほど」と納得できるところがあるのですが、やはり、保護者代表で来ているのに、こういうアンケート結果がでて、じゃあ私たちは、どういう立場で、ここで意見を言えればいいものか。

(委員)

このアンケート自体が、そういう児童数がどこまで減っていくかという前提条件とか、費用がどの程度かかかっていくか安全性がどうだとかいうことがまだ示せていないので、現状のままでいいじゃないかっていう認識になるのかと思う。

(委員)

保護者の中に情報として入れば、みんなの意識は少し変わるかなと思う。

(委員)

それとね、この適正配置の時期やけど、例えば4つありますよね、当面、1つが少ないから3つにする時期、それからもうひとつ進んで2つにする時期、そういう段階が考えられるのだけど、そのへんの方向性というのは、どう持ったらいいのですか。

(会長)

段階を踏んでいくのか、どうかということについてですね。

(委員)

段階を踏んでいくと、その段階の度に大揉めになるような気がするのですが。前の多度津豊原校区のときも、町内全体をどうするのかを決めて欲しいと。それによって分かれるのなら、もう異動がないだろうからってというような声も出ていたのですね。こうなったらこう、こうなったらこうという度が変わって行ったのでは、すごく抵抗がある。

(委員)

それやったら、2つにするのですか、1つにするのですか、そういう答えがいるのですね。



(会長)

この検討委員会で結論を出したいというところです。

(委員)

まず数字でいくと白方が、次は多度津がという順番で見ますよね。今、他の豊原、四箇は安泰や、と。それらの地区の人は、何も意見せんわな。どっちか言うたら。だけど、もう少し進んで、四箇がグンと減ったとしたら、その場合はどうするのですか。2つにするのですか、1つにするのですか、3つにするのですかという、これはなかなか難しいのではないかな。

(会長)

それは、これまでの委員会でもやってきたところで、必ずしも四箇も豊原もこのままでは、安泰というところではないと。

(教育長)

委員がおっしゃった「四箇と豊原は安泰」という発想はしないほうがいいと思いますよ。両方とで1つにする場合は、まだどっちに置くかということはわかってないし。

(委員)

それでね、意見の中にもあったと思うのだけど「4つを1つにするのだったら賛成です」という意見があったと思うんです。それを言うたら、例えば「中心の位置の四箇にまとめます」と言ったら、豊原の人が果たして「それで良い」と言うかどうか。

(教育長)

それを言い出したら、元々、多度津町は4つの行政区になっとなるから、4つは欠かせないということになってしまうから。全然、話にならんところがありますから。

(委員)

それと、この検討委員会の中で、2とか1とか3とかいうふうに決まる場合でも「どこに設置する」というのは、この委員会では、用地の確保の問題とかもあるので、適正配置も「どこに」まで達するのか達しないのかは、非常に難しい問題です。それと、時期にしても、中長期的に見て、望ましい姿を実現するという事で、あまり喫緊に、例えば10年後に小学校をするということは難しいかなということがあるので、やはり将来の在るべき姿をにらんで、考えていつ頃までにや

るのが望ましいのかということになるかと思うのですが。

(教育長)

白方幼稚園に、以前行って話をしたときには、保護者の方は、全体で決めてくれたら別に反対しないけど、今言われたように、白方だけをなくそうというふうに聞こえたら、やっぱり、いけなくて、全体でするのであれば賛成とは言わないけども、まだ納得がいくということを言われていました。

(教育長)

4つの園どこでもいけるかたちにはしている。それで、実際、そういう選択をして自分の地区ではないところへ行っている人も、結構多いと思いますね。

(委員)

豊原とか四箇とかは、当面はそういうことは起こらない、と。それで、豊原の人は安心をしとるわけですよ。そこの違いをどう考えますかということですね。

(教育長)

今ある自分たちの地区の学校はみんな好きだし、満足されていると思いますよ。そういう教育をしてきていると思っています。だから変えるということに対しては嫌やし、抵抗感あるのは重々わかっています。だけど、将来、今からの子どもがもっと少なくなってきたら、ほんまにこれで良いのだろうかということや、果たして行政として、それで良いのだろうかというところに立ち返っていかんといかんのかなと思います。

(委員)

極端な言い方になるかもしれないのですが、2020年の年少、年中、年長なんかの合計してみると、3クラスずつ位の人数、1園にした場合はですね。そうであれば、豊原幼稚園もかつては3クラス、多度津幼稚園も3クラスだったので、賑やかにというか、盛り上がっていたことと思いますし、全町で1園ならそれぞれの地区、校区が痛み分けにもなると思うので。

(委員)

現状、幼稚園も4園ともほとんど1クラスずつになっていますので、町内全体で考えた時には、やはり1園か2園というのが適当になってくるのではないかと思います。施設の問題とか、そういうことも考えると、できるだけ早く1にするか2にするかを決めて、場所的にはさっき委員もおっしゃったように、どこになるかっていうのは、この場じゃないにしたら、白方が募集停止になるかどうかということも

大事ですけど、そこがあつてのこの問題なので、1にするか2にするかを先に決めて白方や多度津の状態も合わせて、そこに向かっていく過程の中で、募集がなくなるとかみたいなことにしないと、豊原と四箇が安泰とかいう事よりも、教育長が言った全体を考えた時には、私個人としては1園かなとは思いますが。

(委員)

でも、やはり痛みわけという考えでは理解は得られないので。

(委員)

必要だとは思いますが、施設面でよくなるとか、教育環境面でよくなるとかもないと、白方だけは良くないので、他のところも痛み分けでやってくれというのは、なかなか理解が得られないと思うので、そのこの教育のプラス面の要素をどれだけ足せるのかが大事。

(委員)

例えば、交通の手段の話で言えば、幼稚園の場合は、大方が車の送迎になっていますよね。だから、町内やから時間的には、そう変わらないかもしれないのだけど、やっぱり遠くなると自分だけ遠くなるの、とか、向こうのほうに行かないかんということになるのだったら、まんべんなくして、向こうからも多少はこっちに来る、とか。それやったら、納得が行くとか、痛み分けとは、そういう類の話では。

(委員)

それであれば、スクールバス等で、どう補えるか、遠くなる地域があるとすれば、どう補っていけるのかということところは当然合わせて検討しないといけないと思う。

(会長)

そのためにも、この「在るべき姿」というのをきちんと検討して、「こういう姿に持って行きたい」ということを全面に出して、ということですかね。

(委員)

そうですね、在るべき姿でプラス面が出ないと、たちまちおっしゃられたような、豊原とか四箇とかが痛み分けということには。

(委員)

それはやっぱり言い方なのですけどね、みんなの気持ちとしてね。やはり、集約することによって、色んな職種の、例えば看護師とか、子どもたちの相談に乗って

くれるような臨床心理士とかっていう様な人たちも配置が可能になるのではないのかなと思うのですよね。今は、それぞれのところに割り振ってしまっているけども、そうじゃなくして、それを集約することで、そこにきちんとまとまった教育体制っていうのができると思うのですよね。中途半端に人数を振ると、本当なら、そこから出てくる費用で、そういう人たちを雇用できる部分ができなくて、という部分があるのではないかなと思います。

(委員)

専任配置が可能になりますよね。それぞれ、4分の1ずつ持っているとしたら、それが1つになれば、1人専任で配置できるという。

(委員)

そうすることによって、今はどうしても、気になる子というか、診断名は出てないけども落ち着かない、配慮を要するっていう子どもたちが増えてきている時に、やはり施設を集中しておけば、体制が取れると思うのですけども、それが分散しておれば、ちょっと難しいという部分がありますよね。

(会長)

皆さまの貴重な意見を頂きましたが、少し議題とだいぶ変わったような気がいたしますが、どうでしょうか、目標年次を今日定めるというのは、困難があるというのが、私ども意見ということで、むしろいくつにまとめるかということの方が大事なのではないかというご意見でもあったかと思いますが、それが決まって目標年次が決まるのではないかということをお聞きしまして。今日、そこまで結論を出すことは難しいということで、次回に検討するというところでいいですか。

(教育長)

幼稚園と小学校でいうと、当然、今までの話から言えば、幼稚園を急いで、小学校は少し時間を掛けてという認識で大丈夫？

(会長)

目標は一つに向かっているという意味では、あまりずらしたりしない、一気に進めるほうが明確ではあるかとも思いますけれども。

(委員)

適正規模ということを軸にして考えると、いつになるのかということは早く示して、それまでのみんなが「わかった」という期間があるほうが、準備とか色々なことができるのかもしれないし、それからその期間の間に平等性とか公平性は確保し

ていけるのかもしれないですね。決まってからの期間、例えば2025年にするのであれば、なるべく早くその方針が示せれば良いのかなという感じがしますね。

(委員)

お金のことを言うとあれですけど、やっぱりそれまでに、ここに使っているお金を集約できれば、もっといい建物が建てられるとか、いい環境ができるという部分については、言えますよね。

(会長)

まとめとしてはどうでしょうかね。

(教育長)

今出た意見を、同じように議事録にして、どういう意見になったのかということ整理して、次、理解を進められたらいいのかな、と。

(会長)

では、次回には、適正規模、いくつにするかということと、それから、目標年次、次回には決めて行きたい、どういう周知をしていくかということも考えて行きたいと思います。何か、他にありますか。はい、どうぞ。

(事務局)

失礼します。議題1の幼稚園小学校のアンケートの結果についてですが、委員の方がアンケートに答えていただいた保護者の方に、情報内容の開示を考えておられます。今回、議論にもありましたが、児童数の減少であるとか、そういった重要な情報が、保護者の方にいきわたってない中ではありますが、皆さまに答えていただいたということで開示をしたいという意向なのですが、これについてご意見がありましたらお願いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

(教育長)

検討委員会として開示をするというわけではなくて、調査に協力してもらったから、その結果を、それぞれのPTAに返す、ということで良いですよ。

(委員)

返すというのは、どういう手段で？これをそのまま、皆さんに配るということですか、それとも誰か代表に返す？

(委員)

学校を通じて・・・。

(会長)

ということは、PTAの方々、これを書いていた方にはこれはお示しされていないということですか。これをお返しするということですよ。それは、私は良いのかなと思いますけど。回答していただいたのが、どうなっているかかがわからないというのは、むしろ不自然というか。当然よろしいかと思うんですが。

むしろ、この会の資料を、PTAの方々、回答していただいた方に対して開示したら良いかということかと捉えてお聞きしました。そういうこともあって良いかと私は思いましたのでね。さらに、周知するためにも必要で、まだ中途だから示せないということもあったかと思うのですが、他市町の現状がどうであるとか、そういうようなこともお知りになると、認識が変わるかなと思います。

(委員)

ホームページ上には、資料は出ています。議事録といっしょに。第1回目かの、子どもが減っていく推計のグラフのところなんかは公開されていました。

(委員)

ホームページに出しているものについては、保護者の方に渡していただいても結構かと思います。それと、アンケートの回答をお配りしていただくのは、この委員会でアンケートを実施したということだけでなく、PTAの方でされたものなので、PTAのご判断で、どういう形で返すかというご判断をしていただいたら良いのかと思うのですが、まあ、ただ現時点でこの検討委員会の議論とは別としてアンケートをして結果をお返ししたものであるということだけ、説明をいただいとった方が有り難いとは思いますが。

(会長)

ちょっと難しいですかね。この委員会としての開示ではなくって、皆さんとしてPTAの中での開示ということなら構わないでしょう、ということで。この検討委員会の議事録等々も、ネットに出ておるという事ですけども、それらも皆さんにお示しいただくということも、されたら良いかと思います。

(委員)

町PTAの連絡協議会で、こういう会議に出席しているということは前回、耳に入れているので、その時に、この間いただいたアンケートの結果はこうでした、この結果を持って、教育課題検討委員会のほうで、検討をしていきますというふうな報告だったら大丈夫ということですね。

(会長)

その時に、公開されている資料を使っただくぶんには、構いませんよね。

(委員)

誤解を招くこともあると思われますね。ここには「将来の小学校の数は、どうなったら良いと思いますか」とただ単に、希望だけというかたちででておって、今の多度津の情勢がどうで、今後こうなるという細かい情報が何もしのアンケートということだから、みんな良いほう良いほうへ、マルをつけていると思うのですね。でも、本当にこの一部の中にも、多度津の財政を考えるとこうだろうとか、そういう人は「これは情勢を読んでくれているな」というコメントも入れてくれているといいのですが。アンケートには書くけども利用するかどうかは別なのですよね。そういう部分で、現状維持が一番いいからマルをつけているというのは相当数あるから、そのパーセンテージが大きいからということも前面に押し出すと、もしかしたら、それが一人歩きをすると怖いかなということがありますね。

(教育長)

アンケートの結果がこうやったから、現状では、こういう気持ちの方が多くいますということだけで、報告したらいいと思う。

(会長)

結果だけを報告した方がいいですね。

(会長)

それでは、よろしいでしょうか。

以上、散会